

### 第3回 開設準備検討会 議事概要

- 1 日時 令和元年8月20日(火) 10:00～11:05
- 2 場所 富山県庁4階大会議室
- 3 委員出席者 井上 孝 大西 ゆかり 加藤 敏久  
金岡 克己 神川 康子 佐脇 由紀子  
牧田 和樹
- 4 幹事出席者 教育長 伍嶋 二美男  
理事・教育次長 布野 浩久  
教育次長 坪池 宏  
参事・教育企画課長 広沢 久也  
生涯学習・文化財室長 菊池 政則  
教職員課長 坂林 根則  
小中学校課長 近藤 智久  
教育参事・保健体育課長 東瀬 義人  
教育参事・県立学校課長 本江 孝一  
県立学校課教育改革推進班長 番留 幸雄

#### 5 会議の要旨

司会が開会を宣し、教育長が挨拶した。

#### 議事事項

##### (1) 県立高校再編の実施計画における新高校の開設準備について

事務局から、第2回の検討会の資料から追加・修正した資料3の一部、資料5、7について説明した。

##### ① 高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動等に関すること

(金岡会長)

- ・神川副会長と私で「新高校4校の開設準備に係る基本的な考え方(案)」を取りまとめたので、神川副会長からの説明後、協議していく。

(神川副会長)

- ・前期再編の「基本的な考え方」と比較した資料7-2で説明する。
- ・前文については、この検討会の設置目的、経緯も含めて記載している。前文の3段落目は、県立高校再編の実施計画に書かれている高校再編の趣旨から引用し、「県立高校の再編統合は、中学校卒業予定者数の大幅

な減少が見込まれる中、引き続き、中学生に幅広い選択肢を確保し、」を記載している。

- ・ 1の高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動等に関することについての2段落目には、「特色ある部活動を新高校に引き継ぐことを記載し、施設設備の整備の部分は部活動も含めた文言にした方がよい」という意見をいただいたので、そういう表現にした。
- ・ また、1の3段落目は、複数の委員から、「生徒が少なくなっていく再編対象校では、充実した教育環境への配慮が必要」という意見をいただいたので、そういう面を特に強調した表現にした。
- ・ 2の新高校の名称、校歌、校章等に関することについては、前回の検討会で、これまでの本県の県立高校の名称の変遷について議論したところであり、そうしたことも考慮する必要があると考えた。また、学校関係者の意見の中には、全く新しい校名を希望するという意見もあったが、委員の方々から、「学校の伝統やその学校の未来も見据えて検討していくべきであり、過去をリセットして斬新な校名とすることは難しいのではないか」というご意見や、「再編対象校だけを取り出して議論するのではなくて、県立高校全体のこれまでの傾向を踏まえて考えていくことが必要」、「学校が所在する地域名が分かることが重要」、「基本的には親しみやすく、わかりやすいものがよい」というご意見が多くあった。
- ・ こうしたことから、2の1段落目では、「本県県立高校の名称の特徴や変遷等を踏まえ、」という表現にした。そして、「所在する地域がわかること」、「親しみやすく、わかりやすいこと」を基本に考えることが望ましいという書きぶりにした。
- ・ 2の2段落目の後半では、「学校所在地の市町名に位置や旧町名を加えることを含め、」と記載し、具体的な表現にした。

(金岡会長)

- ・ 私からも一言申し上げると、10年前の前期再編時は、まだ広く県民の方々に少子化の影響が認識されていなかったため、前期再編の前文では、少子化をぼかしたような書き方になっている。その後、この10年で、少子化、高齢化ということが広く県民の方々の共通認識になり、「中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれる中、引き続き、中学生に幅広い選択肢を確保し、」という文言をあえて追加させていただいた。
- ・ それから前期再編における様々な知見から、特に1の高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動ということについての文言を増やした。
- ・ まず、前文と1つ目の高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動等に関することについてご意見を賜りたい。

(佐脇委員)

- ・ 前期のものより、さらに具体的な内容で、大変わかりやすくなっている。内容については、前文の後半部分に、今回の再編統合が本県の高校教育の一層の充実を図るために実施するという、とても大事な核心がしっかりと明記されている。また、県教育委員会にお願いするわけだが、子供

たちのためにぜひ頑張っていたいただきたい旨の期待と激励も込められた表現になっている。

- ・ 1の1段落目は、これまでの検討会でも意見があったように、両校の良い点をできるだけ活かした形で継承することにも通じており、これは欠かせない内容であると思う。

(大西委員)

- ・ これまでの検討会の内容も反映され、非常に良いと思う。
- ・ 学習活動や学校行事、部活動に関しては、これまでの検討会の中でも、再編統合の移行期において、新高校が設置されない再編対象校の在校生が減少していく学校では、学習面や教育については質が保たれるか不安もあり、学校行事や部活動については活気がなくなるのではないかとという心配の声が、たくさんの委員の方から述べられた。資料の学校関係者からの意見の中にも同様の記載があった。
- ・ 1の第3段落目では、在籍するすべての生徒が卒業するまでの間、引き続き充実した学びの機会が保証されるよう教員配置等に配慮すると記載がしっかりとあるので、先ほど申した学習面、学習活動についての意見に答えており、非常に良いと思う。また、部活動や学校行事については、その引き続きの記載に新高校、再編対象校において、生徒がそれぞれに活気のある活動を行い、充実した高校生活を送ることができるよう、共同で活動することも含め、新しい運営についてきめ細かい配慮が必要としっかりと丁寧に書いてあるので、非常に良いと思う。
- ・ 最後の段落に、「開設準備室においては、中学校等への説明」と書いてある「等」とは中学校の教員の方々の他にも、生徒や保護者ということも入っていると解釈してよいのか。

(神川副会長)

- ・ はい。保護者、生徒、すべての関係者ということである。

(大西委員)

- ・ 金岡会長から、少子化に対する認識がだんだんと浸透しているとありましたが、私の周りの保護者の中には、まだ浸透していない方もいると思う。中学生やその保護者に、この高校再編の概要を周知していただくことは大切なことだと思うので、開設準備室の方から情報提供に努めていくという記載も良いと感じた。

(加藤委員)

- ・ 前文については、特に前期再編時にはなかった中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれるという言葉が踏み込んだ表現で明記されている。これは、生徒数の減少が今後進んでいくことを見据えた表現になっており、ここに書き込まれたことは非常に意義のあることだと思う。今後起こりうる、いろいろな高等学校の基本的な方向性を踏まえなければいけないということで、はっきり明記されたのだと思う。
- ・ 1の方では、私が第1回の検討会以降申し上げているが、今回の再編統合が前回と少しニュアンスが違っていることは、特色ある部活動の継承

である。学科やコースの継承も含めて、それと合わせて特色ある部活動もたくさんあるので、それについても引き続き新高校でも、充実したものになるように、いろいろな配慮が必要だと申し上げてきた。そのような表現をはっきりと、部活動等、あるいは特色ある部活動ということが記載されたことは非常に良いことだと思っている。

- ・高等学校は、教科の学習活動だけではなく、学校行事や部活動を通じて全人的な教育を進める、人間を育てるという視点がずっとベースになっており、そういう点からも今回の部活動について踏み込んだ記載があることは、大変ありがたいと思っている。
- ・中学生諸君に、部活動を頑張ろうという期待感を持って進路を選んでもらえる良い表現になっていると思う。

(牧田委員)

- ・よくまとめてあり、異存はない。

(井上委員)

- ・前文あるいは1の表現については、加筆した部分に非常に意味があると感じるので、良い案になったと思う。特に、1の移行期における表現が前期再編時に比べて明確で、文言を増やして学校行事、部活動について、新高校と再編対象校において、生徒が充実した状況が作れるようにという表現にされているので非常に良かった。
- ・一方で、表現上はこういうところになると思うが、状況がそれぞれ違う今回の4校のケースにおいて、この細かい配慮がどこまでできるかということが重要ではないだろうか。現在、各開設準備室で準備をされているが、新高校が開設すれば準備室は終わりになると思う。新高校開設後、移行期が終了するまでの間、新しい運営がどのように進むのか少し気になる。

(金岡会長)

- ・大西委員から、身近な方々は、必ずしも少子化という現実を理解されていないという発言があった。これは大変重要なことだと思う。今回の高校再編は、中学校卒業予定者が1万人を割り込むということが発端と思う。昨年の富山県内の出生数が6千人台だったと思うが、今後さらに人口が減っていくと、富山県の未来を担う高校生の教育環境はどうあるべきか、真摯な議論を進めていくことが大切だと思う。
- ・1つ目の共通課題については、このあたりとしたい。

## ② 新高校の名称、校歌、校章等に関すること

(金岡会長)

- ・続いて、2つ目の新高校の名称、校歌、校章等に関することについてご意見を賜りたい。

(佐脇委員)

- ・新高校の名称については、いろいろ難しい点もあると思う。前回は事務局から説明があったが、本県の全日制県立高校は、中央農業高校以外の

全ての高校は所在地が分かるような校名になっている。こうした傾向に沿って、今回の案では「所在する地域がわかること」、「親しみやすくわかりやすいこと」の2点が示されていると思う。これは校名を考えるうえでの考え方の基本となり、とても適切なことだと思う。

- また、2段落目にはより具体的に方向性が示されており、理解しやすいものになっていると思う。新高校の名称は、県全体として、調和の取れた違和感のないものに落ち着いていけばよいのではないかと考えている。全く新しい名前とか、創造的な名前という意見もあると思うが、やはり、学校の所在地の市町名とか、長年親しまれてきた地域名が入っている学校というのは、中学生にとっても大変分かりやすく、また、親しみやすい身近なものになっていくと思う。

(大西委員)

- 2の案に関しても、非常に簡潔な文章であるにも関わらず、これまでの検討会の中での話し合いのエッセンスが全部取り込まれており、本当に的確な表現であると思う。
- 3段落目の校歌、校章等については、校名が決定した後に、メモリアルの整備等も含め、総合的に検証していくことが望ましいとある。校章を新しくするとなれば、新高校の新生が入るまでに新しくする必要があると思ったりもする。校歌については、第1回検討会に伺った時に、作るのに時間がかかるので少し時間的な猶予が前期再編時にもあったということであり、そうしたことやメモリアルの整備も含め、全てを総合的に検討し、対応していくのが望ましいことから、ここに記載してある通りで良いと思う。

(加藤委員)

- まず、第1段落の「変遷」という言葉が入ったことは、一言だが、非常に意味深いと実感している。これまで、本県の県立高校の名称は、一つの市の中に複数の高校が存在する場合は、東西南北等の位置を示す言葉が加えられて決められてきているという流れも踏まえた言葉で、前期再編時の文章にはなかったこの一言は非常に良い言葉だと感じている。これにより、「所在する地域がわかること」や「親しみやすく、わかりやすいこと」という表現が、ぐっと現実的になってくる。そういう意味合いも込めてあると思った。変遷という一言が入っただけだが、ものすごく大きな、表現上意味のある変化だったと感じている。
- 第2段落目も、前期再編時には市町村名に旧町村名を加えることなどを含めただけあったのを、市町名に位置や旧町名を加えるとある。この「位置」という言葉が入ったことで、今ほどの趣旨と連動した変更になっており、非常に具体的で分かりやすい表現になった。
- これまでも、高等学校の名称は、所在する地域が分かって親しみやすく、わかりやすいということを実現しているので、これにより今回の新高校の名称も、的確な選択がなされると感じている。非常に的確な表現になったと思っている。

(牧田委員)

- ・まず大前提として、今回は前期再編の成果がある程度出ているということは重視しなければならないと思っている。従って、前文も1も、それを踏まえての議論で、今回新たな基本的な考え方が出てきたわけである。
- ・資料5の第2回の主な意見にある、(2)⑦の私の発言や(3)④の「校歌、校章など具体的なことについては、さらに議論が必要になるが、これまでの伝統の継承も考えるべき」という会長の発言は、ものすごく良い言葉だと思っている。そこで、最後の段落で、「校歌、校章等については、校名が決定した後に、メモリアルの整備等も含め、」の次に「伝統の継承を踏まえ」という文言を是非加えていただきたい。そのことによって、前回と今回との進歩の差が現れてくると思う。

(井上委員)

- ・前期再編のものに比べて、必要な文言にまとめられ、文言を追加することで、よく分かるようになったと思う。

(金岡会長)

- ・牧田委員から少し文言を補強したらどうかという提案は、大変貴重な視点である。

(神川副会長)

- ・質問だが、メモリアルと言った時には、新高校が設置されない高校のメモリアルというイメージが分かりやすいが、伝統の継承と言った時には、どちらの伝統を重視しているのか。受け取り方は個々で違うと思うので、どちらかを明確にしたほうが良いと思っている。

(牧田委員)

- ・それは、新高校が設置される高校のほうである。「伝統の継承を踏まえ」はメモリアルにかけるのではなくて、「総合的」にかけてほしいと思っている。

(神川副会長)

- ・少し心配なのは、伝統の継承を表に出したときに、新高校が設置されない高校の方をむしろ重視しなければいけないという捉え方もある。

(牧田委員)

- ・それは、メモリアルの整備でカバーできるのではないかと考える。

(神川副会長)

- ・捉え方によっては、メモリアルと伝統の継承によって、新高校が設置されない高校がより強調されてしまうのではないかと思う。捉え方を間違わないような表現にした方が良いと思うので、どちらのウエイトが大きいのかを、確認したかったので質問した。

(金岡会長)

- ・人によって、メモリアルをどう捉えるかだと思う。様々な人によって受け取り方も違う。
- ・一般企業だと、ホームページに書かれている沿革には、合併再編した各

社の沿革が書かれているのが一般的である。全て記録として残っている。伝統を大切にしてきた日本の大企業、大変古い企業体がたくさん残っている日本の良さだと思う。従って、メモリアルの整備というのも単に新高校が設置されない高校だけのことではなく、おそらくは両方の伝統を生かし、そこで記録に残していくことだと思う。

- ・ 牧田委員の提案については、ここで10分間の休憩を入れ、教育長並びに副会長、私の方で相談した後、再開したい。

休憩後「新高校4校の開設準備に係る基本的な考え方（修正案）」を配付した。

（金岡会長）

- ・ 牧田委員の提案に基づき、最後の2行を「校歌、校章等については、校名が決定した後に、メモリアルの整備等伝統の継承も踏まえ、総合的に検討していくことが望ましい。」と修正したいが、いかがか。

（異議なしの声あり）

（金岡会長）

- ・ それでは、「新高校4校の開設準備に係る基本的な考え方（修正案）」を、本検討会のまとめとする。
- ・ 今ほどの議論で、メモリアルの整備という意味合い、あるいは伝統の継承という意味合いは、一人ひとりの受け止め方が違うということがはっきりした。一つの教訓として、今後、総合教育会議あるいはその他の最終的な決定の際に、教育長をはじめ教育委員会から、詳しく説明いただければと思う。
- ・ 第1回の開設準備検討会を開催して以来、約3カ月にわたり、委員の皆さまから忌憚のない、そして現状を踏まえた発言をいただいたことは大変ありがたく思う。皆さまの見識、知識、経験を生かして熱心に検討、協議していただき、本日、「基本的な考え方」を取りまとめることができ、本検討会も一つの区切りがついた。この検討会の意見を踏まえ、今後、教育委員会の方で新高校の開設準備を一層進めていただきたい。

## 6 閉会

教育長が謝辞を述べ、11時05分、議事が終了したので、司会が閉会を宣した。